

日刊 動労千葉

83. 11. 2

No. 1483

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二二七二〇七

10.31 狭山闘争

還奪石川さん・徹底審査狭山

として武器を補充書・鑑定書 新 無実石川さん を証明する

十月三十一日、「東京高裁反動寺尾差別判決（無期）九九年糾弾、再審査要求、反戦・反核関東ブロック集会」が、代々木公園で開催され、関東ブロックの解放同盟を中心に、各支援労組・支援団体一万二千名が結集し、圧倒的成功をかち取りました。わが動労千葉も青年部を中心に七〇名が参加し、部落解放同盟千葉県連とともに集会後の戦闘的デモンストレーションまで闘いを貫徹しました。

暗黒の寺尾差別判決弾劾！ 再審査徹底し、石川さん奪還を

狭山闘争は、獄中二〇年の石川一雄さんを先頭に、三万部落解放同盟を軸に支援労組・支持共闘で闘いぬぎ、今日広範な広がりをつくりだしてきました。とりわけ、九年前の東京高裁寺尾判決が、予断・差別・偏見のみで、無実の石川さんを犯人に決めつけ、警察のデッチあげそのもので、「無期懲役」の極刑をおしつける暴挙を行ったことを怒りをこめて弾劾しなければなりません。それは、そもそも石川一雄さんを部落民であるということの「差別と偏見にみちた見込捜査を行い、デッチあげたうえに不当逮捕し、拷問、甘言による「自白」強要などそのまま追認し、反動・差別判決を下したことにあります。そして、これをうけた最高裁は、上告棄却を強行し、再審査却、異議申立棄却まで強行したことを許すことはできません。

裁判所は、無実の決定的証拠 「小名木証言」を採用せよ

この日、弁護団は、石川さんの無実を証明する決定的な証言である「新・小名木証言」すなわち「犯行時、その場所と二〇メートルと離れていないところで農作業をしていたが、私は物音も聞かないし、悲鳴なども一切なかった」とはつきりと証言している小名木さんの証言について詳細な補充書を裁判所に提出しました。

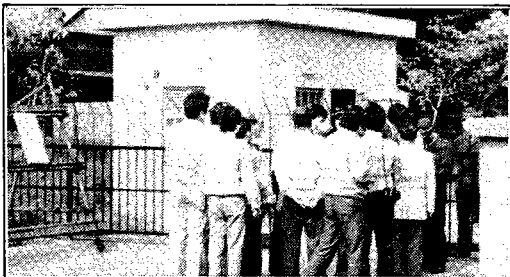
これまで裁判所は、「犯行現場（第一、第二）」としてきたデッチあげが全て崩壊し、逆に多くの「小名木証言」をはじめ、百パーセント石川さんの無実を証明する決定的な新証拠が明らかにになっているにもかかわらず、その一切を棄却し、石川さんを二〇年間にわたって獄中にとじこめてきました。われわれは、徹底的にこれを弾劾し、何んとしてもこの証拠を採用させ、石川さんを奪還し

ようではありませんか。

狭山・三里塚・国鉄決戦勝利の力で 11・9レーガン訪日阻止、中曽根内閣打倒へ！

今、中曽根は、軍事大国化―改憲のためにその凶暴な攻撃をすべての戦闘的労働者・人民にかけてきています。三里塚闘争に対しては根こそぎの解体を策動し、国鉄における戦闘的労働運動の解体、そして狭山闘争を解体することをおして、部落民に対する差別抑圧を強めています。その頂点が、無実の部落青年石川一雄さんに対する差別、デッチあげによる獄死攻撃なのです。これこそ、反動中曽根が、軍事大国化―改憲のための国内支配体制づくりをもつてする反動政治の姿そのものに他なりません。

われわれは、狭山・三里塚を結んで闘い抜き倍かつたすべての力を投入し、「三里塚―国鉄」決戦を闘い、勝利すること、そして、こうした闘いの爆発で必ずや、石川一雄さんを生きて奪還することをあらためて決意しようではありませんか。史上最大最悪の汚職・腐敗のロッキード犯田中を擁護し、人民の犠牲で暗黒と戦争への道をひた走ろうと居直っている中曽根内閣を今こそ人民の怒りの実力でうちたおさねばなりません。10・31狭山を闘った力を倍化させ、11・9レーガン訪日阻止を闘いぬこうではありませんか。



10.17 石川さん激励、千葉刑抗議闘争（千葉刑門前）



部落解放同盟千葉県連と女に決起

11・9レーガン来日阻止

中曽根内閣打倒 全国総決起集会

を粉碎せよ！ 攻撃組織破壊で団結の強固な家族・組合員